

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・英語で表現する(話したり書いたりする)ことに苦手意識があり、特に即興での表現を苦手とする生徒が多い。
- ・授業内外で英語による自己表現の場を多く設定し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

具体の取組の内容

○授業

- ・日常生活に近づけた場面設定でのActivity
- ・毎時間帯活動として行う Chitchat
- ・積極的な Classroom Englishの使用
- ・ペアワーク、グループワーク (教え合い、学び合い)



〈Activity教材の例〉

○授業以外

- ・昼休み、English roomを活用した英語教師とのTalking Time

○各種研修会の実施

- ・小中合同授業研究会、英語指導力向上のための研修会等への参加



〈ALTと会話を楽しむ生徒たち〉

成果①

○生徒の意識調査

- ・約80%の生徒が英語が好きと答えている。
- ・約70%の生徒が英語を話すことに抵抗がなくなってきたと答えている。

○テスト等

- ・以前は英作文で無解答の生徒が多かったが、自分の考えを表現できる生徒が増えてきている。
- ・英語検定を受検する生徒が30%増えた。

成果②

○生徒の変容

- ・与えられたテーマ(課題)で即興で英会話することに抵抗がなくなってきた。
- ・自然なりアクションをとる等、状況を考え、感情を込めた英語での表現が以前よりできるようになってきた。
- ・生徒が互いに教え合ったり、学び合ったりする姿が見られるようになってきた。

○英語教師の変容

- ・授業を見合い、指導法について熱心に協議する機会が増えた。

今後の課題・方向性

- 生徒はActivityに積極的に取り組み楽しんでいますが、実生活ですぐに使えるよう、より自然な場面設定を心がけていきたい。

- 既習事項を使った英語での会話に対する抵抗はなくなってきたが、書くことについては、スペリングミスなどの細かいミスが目立つ。定期的なテストに加え、授業内での観察・宿題の丁寧な点検が必要である。

- 英語が好きな生徒は多いものの、学力差には開きがある。授業内外で支援する場を設けていきたい。

- 知識技能の確実な定着と、4技能習得とのバランスのとれた指導を心がけていきたい。